

小樽市立山の手小学校 学力向上改善プラン

1 実施期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

2 児童の実態

令和5年度の改善プランでは、算数において基礎的な技能の定着をはかる項目で6学年とも目標を達成することができたが、漢字の「読み」および、活用問題や自分の考えを文章に表す問題に課題が見られた。

また、標準学力調査では、3年生、5年生ともに国語科と算数科で全国平均を上回る結果となった。全国学力・学習状況調査では、国語科は概ね全国平均を上回ったが、算数科においては全国平均を下回る結果となった。

児童アンケートより、家庭学習時間の割合は学年によって傾向が分かれており、家庭学習が目安に達していない児童の割合が各学年とも高いことが見とれた。音読では、音読詩集を朝の会で読んだり、各学級で音読カードなどを活用したりして、日常的に家庭でも取り組むことを推進しているが、学年が上がるにつれて、音読の取組が少なくなる傾向が見られた。家庭での読書時間も年々減少傾向にある。どの学年にも一定数全く読まない児童がいることが課題としてあげられる。「家庭学習のすすめ」や「山の手スタンダード」を指針とした指導を継続し、今後も学校として6年間の見直しを持った家庭学習習慣の定着を、家庭にも啓蒙していく必要がある。

3 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・1年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
2年	・2年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
3年	・3年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
4年	・4年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
5年	・5年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
6年	・6年生の漢字「読み」90%「書き」72%の定着。 ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・繰り上がり、繰り下がりのある計算ができる。(82%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
2年	・九九を正確に覚える。(82%) ・繰り上がり、繰り下がりのある計算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
3年	・整数の四則計算ができる。(80%) ・小数と分数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
4年	・わり算の筆算ができる。(80%) ・小数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・小数と整数のかけ算、わり算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
5年	・小数のかけ算、わり算ができる。(80%) ・異分母分数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
6年	・分数と整数、分数同士のかけ算、わり算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・20分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
2年	・30分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
3年	・40分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
4年	・50分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
5年	・60分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を見直す。
6年	・70分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を見直す。

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 音読詩集や音読カードを活用し、日常的に音読に取り組む。
- ② 当該学年で学習する漢字は2学期中に学習し、冬季休業中や3学期に定着を図るとともに、毎月、月末は「漢ばる50」（漢字の書き取り50問テストの日）を実施することにより定着の状況を把握する。
- ③ チャレンジテストを実施し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ④ AIドリル等を活用した繰り返し学習に取り組む、基礎学力の確実な定着を図る。

(2) 授業改善を図る研修の取組

- ① 「小樽市 授業づくり5つのステップ」に基づいた、自分の考えを書く活動や振り返りを位置づけた授業づくりに取り組む。
- ② 国語専科の活用や算数少人数指導によるきめ細やかで丁寧な指導による基礎・基本の定着を図る。
- ③ ICTの活用により個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
- ④ 全学級公開授業の実施や公開研究会の開催による校内研修の充実と「主体的で対話的で、深い学び」の実現。

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ① 「山の手ルーム」（放課後学習や長期休業中学習サポート）を行い、学習習慣が身につくように支援する。
- ② 「家庭学習のすすめ」を指針として、家庭での学習習慣の形成について啓発を図る。
- ③ 生活リズムチェックシートやキャリアパスポートの活用等による学習・生活習慣の定期的な見直しと改善を図る。

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R6年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 改善プランに基づく取組及び実施計画の確認 全国学力・学習状況調査過去問題の実施 チャレンジテスト（前年度サポート問題）の実施 4月「漢ばる」の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○R6全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自校採点・分析・改善の取り組み
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） 5月「漢ばる」の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> 放課後学習「山の手ルーム」の計画・実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査結果分析・改善の取り組み 6月「漢ばる」の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジテスト（1学期サポート問題）の実施 長期休業中学習サポートの計画・実施 7月「漢ばる」の実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○R6全国学力・学習状況調査結果分析 8月「漢ばる」の実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究における交流授業を通じた授業改善 9月「漢ばる」の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	<ul style="list-style-type: none"> 10月「漢ばる」の実施 校内研究における交流授業を通じた授業改善
12月	<ul style="list-style-type: none"> 11月「漢ばる」の実施 チャレンジテスト（2学期サポート問題）の実施 長期休業中学習サポートの計画・実施 12月「漢ばる」の実施
R6年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 学年末定着確認テスト 1月「漢ばる」の実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 全国学力・学習状況調査過去問題の実施 2月「漢ばる」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関する取組の状況把握 次年度に向けた取組の検討 3月「漢ばる」の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○新学力向上改善プランの作成

(2) 授業改善を図る研修の取組

- ① チェックリストを作成・活用する等、「小樽市 授業づくり5つのステップ」に基づく授業づくりについて、定期的な振り返り機会を設ける。
- ②③ 全国学力・学習状況調査や確認テスト、児童アンケートにより現状を把握し改善に努める。
- ④ 研究協議や研究の評価を通して全職員で成果と課題を共有し、授業改善を図る。

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

児童アンケートや保護者アンケート等により現状を把握し、改善に努める。

6 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 児童アンケート、保護者アンケート等を通して定期的に実施状況について把握し、改善に努める。
- ② 間違えた問題の直しや繰り返し学習を通して、当該学年の漢字を確実に定着させる。
- ③ チャレンジテストの結果から、現状と課題、改善方策を学校全体で共有し、授業改善に活かす。
- ④ AIドリルの学習状況や進捗状況を把握し、補充的・発展的な学習を行う場面等において、個別の学習支援を行う。